

鉄道ピクトリアル

2003年7月号 Vol.53 No.7 通巻No.733

<特集> 北海道の鉄道

■表紙 津軽海峡線の新しい主役789系 ……塩塚 陽介
渡島当別—釜谷 2003-4-28
キヤノンEOS-1V EF50mm F1.8 絞り f 4 タイム1/800 RDPⅢ

■カラー

特集：大地を巡る（1～7ページ）

服部勝司・神田竜司・千葉 守・鶴川賢三・中野 剛
……………尾崎 渉・富手 淳・小野啓一・池田嘉晃・塩塚陽介
古田彰吾・藤井貴史・木川 平・松橋 均

特集：NORTH MEMORIES（8ページ）

……………長尾 裕・三ッ谷政久・飯塚卓治
Pictorial Color Gallery City Boyがやってきた…………山下 敦史…105
2002年度 東急世田谷線300系カラーバリエーション

……………金子 智治…110

〔首都圏新都市鉄道TX-1000・2000系／北越急行HK100
形「ゆめぞら」／京阪電気鉄道1900系が特急色に／「旧新
橋停車場」オープン／三岐北勢線に塗色変更車ほか〕 108～112

■グラフ

国鉄からJR北海道へ 鉄道近代化の歩み……………構成：編集部… 41
1960年代 北海道の鉄道……………写真：伊藤 昭ほか… 50
北海道の森林鉄道、殖民軌道……………構成：編集部… 52
道内本格電化の立役者711系交流電車……………写真：真鍋裕司ほか… 54
トピック・フォト（各地・関東・中部・関西）……………113
JR東日本のお座敷客車……………構成：静 拓志…120
終焉迫る JR 東日本の急行形電車……………佐々木晶朗・青木豊美…122
米子地区 JR 電車ニュース……………安藤 寛朗…123
小田急電鉄ダイヤ改正……………長内 宏…124
D51その一族—1115分の1の素顔—(57)……………構成：編集部…126
阪神ニュース……………阪神電車鉄道同好会…128

■本 文

今月の話題：北海道の鉄道……………編 集 部… 9
対談：技術的視点で語るJR北海道の鉄道…柿沼博彦・曾根 悟… 10
JR貨物 北海道支社の概要……………日本貨物鉄道(株)北海道支社… 18
北海道の鉄道 最近の話題を探る……………早川 淳一… 27
札幌市営地下鉄—その歴史、路線、車両……………近藤 貴文… 58
似て非なる電気機関車ED76形……………杉田 肇… 67
北海道の森林鉄道、殖民軌道—その成立と発展— ……河野 哲也… 71
湧別支線の研究……………三宅 俊彦… 79
狩勝実験線の記録と狩勝旧線の現状……………山田 亮… 85
〔1980～2002年度 国鉄～JR北海道ダイヤ改正年表…三宅 俊彦… 92〕

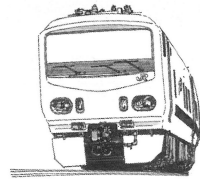
*

鉄道の話題……………編 集 部… 40
書評(476)『駅再生 スペースデザインの可能性』…和久田康雄… 57
平成15年度JR各社事業計画等について……………編 集 部… 98
北勢線の転身—近畿日本鉄道から三岐鉄道へ— ……増井 仁…103
AMトラックの都市間列車に乗る……………服部 重敬…129
連載・パーツ別 線路観察学【6】……………石本 祐吉…138
書評(477)『樋口慶一写真集 東北の蒸気機関車』…西野 保行…141
4月のメモ帳……………142
読者短信・情報ファイル……………143
後部車から……………147

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru

今月の話題



カット：山本茂樹

北海道の鉄道

1880(明治13)年11月、手宮—札幌間に官営幌内鉄道が営業を開始し、北海道における鉄道の歴史の幕が開いた。以来123年、わが国の鉄道の発展の中で、北海道の鉄道はさまざまに変化を遂げてきたわけであるが、酷寒の地で維持され、さらに本州とは津軽海峡で隔てられていたことなどによる自然・風土、地理的条件から、北海道では本州の鉄道にはない独特の鉄道文化が育まれてきた。そして、それが北海道の鉄道に対する多大な魅力を形成する一因をなしてきたと言えよう。そうした北海道の鉄道ならではの特徴をいくつか挙げてみよう。

- (1) 酷寒地装備の車両など、北海道でしか見ることができない車両や寒地に対応した技術があった。
- (2) 青函連絡船を介した本州との独特の輸送体系。
- (3) 炭鉱が多く、鉄道による石炭輸送が活況を呈した。私鉄または専用の運炭鉄道も多かった。
- (4) ローカル線が多く存在した。
- (5) 森林鉄道や殖民軌道といった開拓に関わる特異な鉄道があった。

こうして考えてみると、その多くは過去のものである。実際、国鉄改革期を境に北海道の鉄道は大きく様変わりし、地域的な路線の多くは整理され消えていった。

しかし、北海道の鉄道に対する興味は決して消えていない。21世紀を迎えた今日、積極的な技術開発を展開するJR北海道の鉄道事業をはじめとして、新しい視点でその魅力を見出すことができるのではないだろうか。本号では新たな時代における北海道の鉄道に対する興味的一端を、歴史的記録の探究といった側面を含めて、多彩な発表の中から探ってみたいと思う。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan